

平成24年度事業計画

(平成24年4月1日から平成25年3月31日)

【公益目的事業 1】

高齢社会における健康問題、経済問題、生きがいに関する調査、研究及びこれらに関する国際交流活動、並びにその成果を活用したシステム等の開発とそれに関連するサービス提供等の事業

I. 高齢社会における健康問題、経済問題、生きがいに関する調査、研究

1. 高齢社会における健康問題に関する調査・研究

(1) 介護サービスの質と管理手法の研究

1) 「HC-QI によるケアサービスの質の評価研究」

(平成 24～26 年度文部科学省科学研究費・基盤 A 申請中)

これまで MDS 方式で算出してきた QI (Quality Indicators) による質の評価研究コンソーシアムをインターライ方式のアセスメントデータに対応させて、その拡大・普及を推進する。

2) 「介護保険利用者のサービス利用パターンの類型化と関連要因に関する研究」

(平成 23～24 年度)

介護保険サービスの典型的な利用パターンとその選択要因を検討する 2 年目の研究を行う。

3) 「介護における事故・ヒヤリハットの再発防止を支援するシステムに関する研究事業」

(平成 23～24 年度: 三菱財団助成事業)

事故・ヒヤリハットの報告様式(確定版)に基づき、インターネット上に事例バンクを公開する。

4) 「訪問介護員のキャリアパス構築に向けた追跡調査」(平成 23～24 年度)

平成 12 年から 20 年までに町田市のキャリアアップ研修に参加したホームヘルパー 1,019 名の資格取得、事業所の異動、役職者への就任、離職等についての追跡調査を行い、分析結果に基づきキャリアパスへの提言をまとめる。

(2) 介護予防政策の研究

1) 「要介護高齢者の増加率低減を指標とした評価データベースの構築」

(平成 24～26 年度厚生労働省厚生科学研究費・申請中)

協力自治体(市川市・松戸市・新宿区・大田区)に新たな自治体を追加して、多様な介護予防プログラムを一元的に検証可能なデータベースを複数拠点で構築する。

2) 「生きがい就業の介護予防効果に関する共同研究事業」

(平成 24～26 年三菱財団社会福祉事業・研究助成・申請中)

町田市シルバー人材センターと平成 18 年から継続している共同研究。就業や研修および福利厚生活動の介護予防に対する有効性を検証する。

3) 「うつ予防応用プログラムの開発および効果検証事業」

(桜美林大学加齢発達研究所との共同研究 平成 23～26 年度・文部科研・厚労科研・申請中)

地域(府中市・長岡市)在住高齢者のメンタルヘルスの維持増進を図る目的とし、介護予防事業のニーズにあったうつ予防プログラム効果について地域差も含め検証を行う。

- 4) 「うつ予防プログラムの普及定着に向けたサポート事業」(府中市受託事業)
(福祉医療機構・研究助成申請予定)

府中市のうつ予防教室の普及定着に向けた、専門職によるうつ予防プログラムの実施および従事者の育成を目的とした事業を府中市と共同で実施する。

- 5) 「地域高齢者の精神的健康度の予後に関する縦断的研究」
(長岡市との共同研究、平成 22～26 年度)

自殺率が高い長岡市の在宅虚弱高齢者を対象に、精神的健康度の予後についてコホートによる縦断的調査を行い、今後の精神保健計画に有益な資料を提供することを目的とする。

- 6) 「高齢者のアクティビティに関する研究」
(平成 23 年～24 年文部科学省科学研究費 若手研究(B)・申請中)

居宅介護サービスを利用する要支援・要介護高齢者のアクティビティ参加に関する研究を新たに開始する。

(3) 有酸素運動を用いた元気高齢者づくりのためのエアロビック研究

- 1) 平成 24 年度のダイヤビック普及活動

ダイヤビック教室、自治体主催のイベントでの指導・紹介活動を継続。
(普及活動は「ダイヤビックひばり会」に委託)

- 2) 参加者対象のアンケート調査の解析

ダイヤビック教室参加者を対象としたアンケート調査(平成 21 年～22 年度)の解析を、前年度に実施した高齢指導者のインタビュー結果も含めて引き続き実施する。また、高齢指導者のノウハウをまとめマニュアル化も検討する予定である。

- 3) 研究会の開催と情報提供誌の発行

高齢指導者の指導技術向上を目的とした「第 9 回ダイヤビック研究会」を開催し、情報提供誌「ダイヤビックニュース」を発行(年 4 回)する。

- 4) ダイヤビック・インストラクター養成講座の開催

インストラクターの資格取得の要望に応え、養成講座を開催する。

2. 高齢社会における経済に関する調査・研究

新規テーマについて検討。

3. 高齢社会における生きがいに関する調査・研究

- (1) 生きがい感研究

新たな研究テーマとして、高齢期における子供との同居・非同居の選択に関わる心理的問題を取り上げ、高齢者の生きがい感や家族感について質的調査を行なう。

- (2) 企業退職高齢者を対象にした「いきいき高齢者づくり」のモデル事業

当財団の賛助会員会社出身の退職高齢者の集団「ダイヤ・アクティブエイジング・ア

ソシエーション」(DAA)の親睦・交流活動や地域社会参加・貢献活動等を「いきいき高齢者づくり」のモデルと位置づけ、調査研究を行う。

(3)「都市高齢者の社会関係周縁部に関する研究」(平成18年度～)

日常生活を通じて出会った挨拶や顔見知り程度の他者といった社会関係の周縁部に位置づけられる他者について、その実態および当該高齢者に及ぼしている影響について定量的に検証する。これまで、測定指標に関する既存研究のレビュー、測定指標の開発を行ってきた。平成24年度は、研究会(平成19年から継続)を行ってきた有識者と共に、都市部の一般在宅高齢者を対象とした大規模調査を予定している。

(4)「中高齢者の交流媒体としての電子メールに関する研究」

(平成23～25年度文部科学省科学研究費・若手研究(A))

高齢期の社会的孤立防止の観点から、社会関係を取り結ぶ他者たちと交流するための媒体(交流媒体)としての電子メールに焦点を当て、その利用実態を明らかにする。本年度は、都市部の一般在宅中高齢者を対象に、大規模定量調査を実施する。

(5)「ICT(情報通信技術)を活用した高齢期の社会活動継続に関する研究」

中年期から日常生活においてインターネットを活用してきた人々が高齢化していくなかで、後期高齢期においても活動を継続していくためのICTの可能性について明らかにしていく。日本興亜福祉財団の研究助成および文部科学省科学研究費を受けて行ってきた、70歳代・80歳代のICT利用者(ダイヤネット、IDNのメンバー)へのインタビュー調査の結果を分析し、論文として投稿する。

(6)「高齢者における機能低下と生きがい就業の支援方法に関する研究」

(平成24～25年度文部科学省科学研究費 若手研究(B)申請中)

シルバー人材センターにおいて、機能低下のみられる高齢者の就業継続を支援するための要因に関する研究をスタートさせる。

4. 国際比較を枠組みとした調査・研究の実施

(1)「国際保健事業の長期的評価のための調査研究」(平成22～29年度)

中国農村部の保健医療福祉政策に有益な資料を提供するために、東北農村地域の中高齢者を対象に健康度及びライフスタイルについて包括的研究を実施する。今年度は、健康度に影響するリスクファクターを明らかにすることを目的とし、縦断的研究を実施する(データは延辺大学・琿春市幸福中高年活動センターの協力)。

5. 高齢社会と企業に関する調査・研究(ダイヤ財団創立20周年記念事業)

(1)「企業の中高年従業員に対する取り組みと従業員の意識に係る調査・研究(仮称)」

(平成24～25年度)

本格的な高齢社会を迎える中、企業が中高年従業員を活用するためにどのような労務施策、福利厚生制度を採用しているかを調査。あわせて、それに対する従業員の意識も調査する。平成24年度は、三菱グループ各社(当財団賛助会員)およびその従業員に対するアンケート調査および面接調査を実施し、平成25年度に分析、調査報告書の取りまとめを行う予定。